



刑務所内での訓練風景

(K9Buddies, Inc.提供)



## Cell Dogs (独房の犬たち)

在米22年。かつては人間の専門家を目指し文化人類学を専攻。2001年からキャリアを変え、子供の頃からの夢であった「犬の専門家」に転身。地元のアニマル・シェルターでアダプション・カウンセリングやトレーニングに関わり、個人ではDoggie Project (www.doggieproject.com) というビジネスを設立。犬のトレーニングや問題行動解決サービスを提供している。愛犬ジュリエットが他界した今は、ニューヨークに移転して活躍中。ご意見・ご感想は：info@doggieproject.com



てらくちまほ

かれこれ5、6年以上前の話ですが、ケーブルチャンネルのアニマル・プラネットで「Cell Dogs」という番組を見つけた私は、感動のあまり叫びました。「なんと素晴らしいプログラム！ 関わる人と動物みんなに得るものがあった、まさしくWin-Win！」(04年頃に放送されていた番組ですが、残念ながら今はもう放送されていません。)

いわゆるリアリティー番組で、カメラがアメリカ各地の刑務所に潜入し、所内で実施されている犬の訓練プログラムの一部始終を追うという内容です。ここで訓練されるのは、安楽死を逃れて地元のシェルターから連れてこられたホームレス犬。犬たちを世話し訓練するのは、罪を犯し刑に服している囚人たち。

このプログラムがある刑務所の大半は重犯罪者を収容する刑務所で、訓練官を務めるのは数十年の刑、または終身刑を負った服役者が多いようです。青少年鑑別所でのプログラムを紹介した回もありました。

応募が多いため、プログラムに参加できるのは面接や抽選を勝ち抜いた者のみです。そして晴れて選抜されると、割り当てられた犬と初日から昼夜を共にすることに なります。基本的な身の回りの世話(食事・排泄・散歩・掃除など)から本格的なしつけまで、プログラム期間中はとにかく一心同体。しかしやがて訓練が終了すると、しつけの行き届いた犬たちは新しい家族を見つけ、刑務所から旅立っていくのです。別れの際におん泣きながらも喜びと誇らしさをみながら服役者たちの顔を見て、私も一緒にほろほろ涙を流したものでした。

### セカンド・チャンス

このプログラムの何が素晴らしいか。それは「セカンド・チャンス」やり直しの機会」を体現しているところだと思えます。人間の都合で捨てられて命を失いかけたホームレス犬と、過去の過ちを償うために刑に服している囚人たち。服役者の中には一生その刑務所を出

る可能性がない人もいます。そんな「もう人生の先がない」どん底に落ちたような人間が、何の偏見も持たずに100%頼ってくる犬と寝床を共にし、訓練に従事し、絶対の信頼関係を築いていきます。そしてやがては家族のような犬を、外の世界に晴れ晴れしく送り出す……。それはまさしく「自分の分身」を送り出すようなものなのかもしれません。さあ、第二の人生(犬生)が始まる！ 次は何がなんでもうまくやる！ という気持ちを犬に託す部分もあるでしょう。インタビュールされていた刑務所長や監視員たちも、このプログラムが導入されてから刑務所内の雰囲気や雰囲気が変わると言っていました。所内の問題も少なくなり、みんなの顔も会話の内容までも変わってきたと。誰にでも変われる機会は与えられる。与えられたら、それを大いに活用し、変わる。人生はどこからでもやり直しがきくはずということを教えてくれるような、力強い番組でした。

このコラムを書くにあたり、外部委託業者として実際にCell Dogsプログラムを提供しているK9Buddies, Inc. (www.k9buddies.org) のディレクター、ブライアン・ムリガンさんに連絡を取ってみたところ、とても快く写真使用の許可を下され、Cell Dogsプログラムについてのコラムを書くことを大変喜んでくださいました。「とにかく一般の人に知ってもらいたい。プログラムをもっと大きくするには多くの人の支援が必要。動物愛護活動をしているうちに人間という生き物に絶望したこともあるが、犬のプログラムを通して人間の可能性と素晴らしさを再発見している。だから人の力にも期待を持ち続けていきたい」とブライアンさんは話してくれました。

さて、今回は私のお薦め「犬の映画・犬の本」をご紹介します。思っています。ごっぞお楽しみに。